

第四話 現代根付が与えた衝撃 モダニズムと作家主義

今回は若い根付作家たちと外国人コレクターの出会いを通して1970年代に始まった現代根付の創作運動を見てきました。今回はその運動がどのようなものであったのかということを作風や技術の変遷から探ってまいります。1970年当時の象牙業界は分業による生産が主流で、荒突きと仕上げの専門職が連携していました。題材は福神や十二支、歌舞伎、能などの古典的な日本趣味の踏襲でした。そこには明治時代から続く輸出を中心とした象牙職人の伝統が引き継がれていました。専門ならではの効率的で無駄のない形状と熟練した緻密な表面の細密な装飾が特徴で、江戸時代までの実用的な根付から、鑑賞用の根付となり、本来の根付とは乖離したものになっていました。明治以降古典根付は海外に多く流出していたため、国内ではまとまって紹介される機会も多くありませんでした。1975年に古根付の研究会が結成されるなど徐々に古根付に触れる機会も出てきました。そんな折1981年アメリカからの里帰り展として200点を超す古根付が新宿で開催されました。江戸時代の根付は決して技巧的でない作品でも個性的で大きな印象の中に味わいを見せていました。古根付の独特のフォルム

とデフォルメは、ヘンリームーアやブランクシーのような抽象的・有機的な量塊を追求する世界的なモダンアートと共通する美意識を備えているように作家の眼には新鮮に映りました。古根付の中に見出した方向性は従来の輸出向けの根付から脱却を求める新しい可能性を予兆させるものでした。現代根付は現代の感覚を活かすとともに、根付本来の形態の復権を目指すものでもありました。



立原 寛玉 「べんきょう」象牙



立原 寛玉 「十二支丑」象牙

作家の視点『及川 空観』

当館が主催するゴールデン根付アワードで、最多のグランプリに輝いている空観氏に自身の作品について解説をいただきました。

「登場人物が全員悪者という作品を彫りたいと思ったのが始まりです。少し洒落た感じにしたかったので、トランプゲームに興じる紳士淑女という設定にしました。トランプは慶長期の南蛮貿易で西洋歌留多(かるた)と称して紹介されましたが、本格的に広まったのは明治になってからといいます。明治期と言えば西欧に追いつこうと社会が大きく変わった時代。その欧化政策の象徴となった鹿鳴館では毎晩西洋に倣った社交会が行われました。そこでは流行したばかりのトランプに紳士淑女たちが興じていたかもしれません。その場に紛れ込んだ「いかさま師」を作品にしました。真ん中の体格の良い紳士を囲んで、淑女は胸元から

替えのトランプを抜き、紳士は袖口からトランプを引き出し、通りすがりを装ったトップハットの紳士は相手の手札をのぞき込んでサインを出して・・・今まさにいかさまの決定的瞬間。周りのいかさま師たちにだまされると思いきや、中央の紳士は背中に別のカードを仕込んで勝機を狙っています。登場人物全員がいかさま師!果たしてこの結末は如何に、まさに如何様にも!」



及川 空観「いかさま師」象牙
THE GOLDEN NETSUKU AWARDS
グランプリ作品

及川 空観 (おいかわ こうかん)

1968年岩手県生まれ。日本的な情緒を躍動感ある造形美にまとめる作風を特徴とします。自由な発想と壮大な物語を盛り込み根付というジャンルを超えた新境地に挑んでいます。



2025年 10月～12月の特別企画展のご案内

人をつなぎ、
美をつむぐ根付『惹きこまれる根付の美』展

10月 「日本の祭り」展 ■ 10月1日(水)～31日(金)

11月 「秋の名品」展 ■ 11月1日(土)～30日(日)

12月 「ものがたりの根付」展 ■ 12月2日(火)～28日(日)

京都 清宗根付館 公式ホームページのTwitter、Instagramにて、最新情報や作品画像を発信していますので、皆様のフォローをお待ちしています。

第9回 水木十五堂賞受賞(奈良県大和郡山市より授与)、家庭画報(目次頁)に毎月掲載、NHKプレミアム「美の壺」出演



公式サイトはこちらから▶



佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館を支援しています。



京都 清宗根付館 とは

当館は、佐川印刷株式会社 取締役名誉会長 木下宗昭による「日本のよき伝統を、日本人の手によって、日本に保管したい」という発意によって、ここ文化首都・京都に設立された、日本で唯一の根付を専門とする美術館です。当館では、「新たな挑戦」と「絆」をむね(宗)とし、根付と根付をめぐる文化の継承・創造・発展を目指し、<魅せる><育む><繋がる>を使命に、地域と皆さまに開かれた美術館として活動しています。



SUMMER-AUTUMN Issue. 21

〔目次〕

- 企画展の見所
- 現代根付の歩み
- 作家の視点

〔発行元〕

公益財団法人 京都 清宗根付館
〒604-8811 京都市中京区壬生
賀陽御所町46番地(壬生寺東側)
電話 075(802)7000
www.netsukekan.jp/



日本で唯一の現代根付専門美術館 京都 清宗根付館『企画展』のご案内

根付で見る日本の魅力『あっぱれ!ニッポン』展

今夏は関西万博の開催を受けて、世界の観光客から日本の文化や芸術にも注目が集まっています。自然に寄り添い、四季折々の美しさを愛でる独自の美意識や侘寂のように簡素で静寂な様式美を持つ日本では様々な芸術が発展していて、まさに『あっぱれ!ニッポン』と世界に誇れる文化を有します。根付も日本固有の美術工芸としての伝統を継承してきました。根付は着物を着た際に帯から提げ物を吊るす留め具でしたが、次第に緻密な細工と洒落の利いた意匠によって、その芸術性が高く評価されるようになりました。幕末から明治期には海外に多く輸出されジャポニズムの一翼を担いました。根付は世界で唯一の美術品として欧米

からも高い評価を受けています。そうした世界を魅了する根付を通して日本の魅力を紹介いたします。海外から見た日本のイメージを3つのカテゴリーに分けて探ってまいります。7月は「芸能の華」と題して歌舞伎や能、神楽、日本舞踊、小唄、漫才などの多彩な日本の芸能に焦点をあてます。8月は「妖怪たちの夏休み」として、日本各地に伝承される妖怪や鬼、幽霊などの異界のものたちが大集合して、夏の肝試しを開催します。9月は「侍と花魁」として、礼節と忠義を重んじた武家社会の象徴である侍と美貌と教養の象徴である花魁を手掛かりとしながら奥深い日本文化を紹介します。

The Charm of Japan through Netsuke.

Amazing Netsuke!

This is Japan!

"Brilliance of traditional arts" July 1(Tue)~31(Thu)

"Summer Fun for Yokai Monsters" August 1(Fri)~31(Sun)

"Samurai and Oiran(courtesans)" September 2(Tue)~30(Tue)

根付で見る日本の魅力
『あっぱれ!ニッポン』展

7月「芸能の華」展／7月1日(火)~31日(木)

8月「妖怪たちの夏休み」展／8月1日(金)~31日(日)

9月「侍と花魁」展／9月2日(火)~30日(火)

公益財団法人 京都 清宗根付館
Public Interest Incorporated Foundation
KYOTO SEISHU NETSUKU ART MUSEUM
〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町46番地1(壬生寺東側)

SAGAWA PRINTING

佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館を応援しています。

告知ポスター

7月

■ 7月1日(火)～31日(木)

「芸能の華」展

根付では歌舞伎や能などの芸能を題材にした作品が多くあります。もともと日本での芸能の歴史は古代の神事に遡り、アメノウズメは歌舞の始祖神と崇敬されています。飛鳥時代に仏教とともに大陸風の歌舞が伝わり、日本古来の儀式音楽と融合して雅楽が整えられ、平安時代には猿楽や田楽が庶民に広まりました。また白拍子には今様の歌舞を披露して権力者らの寵愛を受けるものまで現れました。室町時代には能が確立し、江戸時代には出雲阿国を祖とする歌舞伎が生まれ、人形浄瑠璃とともに江戸庶民の娯楽として人気を得ました。芸能には日本人らしい所作や感性を見いだすことができます。

8月

■ 8月1日(金)～31日(日)

「妖怪たちの夏休み」展

お盆を迎える8月は当館に妖怪や鬼、幽霊たちが大集合して、幻想的な異世界を出現させます。日本では古代から八百万の神の思想に根差して、自然物にはすべて精霊が宿ると信じられ、奇怪な現象や畏怖の原因を妖怪や鬼の仕業としてきました。妖怪は日本人の自然観や信仰心に潜む「集合的無意識」に起因した、人の心の写し鏡といえます。平安時代や戦国時代、幕末など、社会情勢が不安定なときほど、怪奇談が語られました。逆に安定した江戸中期では「恐怖の象徴」だった妖怪たちの滑稽さを楽しむようになりました。根付でも楽しく茶目っ気のある妖怪たちが勢ぞろいします。

9月

■ 9月2日(火)～30日(火)

「侍と花魁」展

外国の方が日本のイメージを語る際に「侍」と「花魁」は日本文化を象徴するキーワードと言えます。9月は「侍」と「花魁」から日本文化を探ってまいります。明治期に新渡戸稲造は『武士道』を英語で執筆し、武士道を西洋の騎士道精神に共通する忠誠心と倫理観を持つ「高貴な身分に伴う義務」として西洋に紹介しました。現在でも映画やアニメで侍がヒーローとして登場します。一方花魁（上方では太夫）は江戸時代の遊郭で最高位の遊女を指し、単なる娼妓を超えて、美貌と教養、洗練された美意識によって流行の発信源となりました。今でも国内外の人々を魅了する日本の華です。



栗田 元正（1976～）
「暫(しばらく)」 高3.8cm
鹿角・柘
市川宗家が受け継ぐ得意演目は十八番(おはこ)と呼ばれ、この「暫」は初代市川團十郎が上演して人気を博した。元禄歌舞伎のスーパーヒーロー。



高木 喜峰（1957～）
「鬼の念仏」 高4.3cm
黄楊・海松
鬼の念仏とは、冷酷な者がうわべだけ慈悲深いふりをすることを指す。根付では冷酷な鬼が念仏を唱えている間に楽しくなって踊ってしまう滑稽な場面に。



及川 空観（1968～）
「信長」 高5.1cm
黄楊
戦国の世を平定した英傑。桶狭間では敵将今川義元率いる2万5千人の軍勢に対し、信長は2千人を率いて勝利した。関の声を上げる姿を作品に。



岸 一舟（1917～）
「井筒」 高5.0cm
象牙
能の大成者である世阿弥が「上花也」(最高級)と自賛した、夢幻能の傑作と知られ、在原業平の娘の亡霊が業平の形見をつけて回想するという内容。



福山 恒山（1946～）
「ぬりかべ」 高4.3cm
象牙
夜になると人間の歩行を阻む(姿は見えない)壁をいう。根付では子犬に吠えられて後ずさりしている。舌を出して犬のご機嫌を取ろうとしている。



安藤 みち（1948～）
「五節舞姫」 高6.4cm
象牙
平安時代、宮中では収穫を祝う式典に合わせて、華やかな舞が披露されたことが源氏物語に描かれている。貴族の娘たちから選ばれ、名譽とされた。



針谷 祐之（1954～）
「山中しぐれ」 高2.5cm
黄楊・漆
同曲の小唄でも風光明媚な山中温泉の風情が織り込まれ、一夜の恋の儚さが唄われる。地元の漆芸家である作家の想いも込められている。



和地 一風（1970～）
「妖(あやかし)の郷」 高7.3cm
鹿角
妖怪たちの住処を想像して作品にしている。さて何匹見つけられるだろうか? 全体をよく見てみると「?」マークになっているというオチ。



宮澤 彩（1949～）
「結雁金」 高3.6cm
象牙
真田幸村の兜を飾った六文銭の家紋は有名だが、平時には結雁金紋が使われたことから、兜の吹返しに結雁金紋を彫刻して平和への願いを込めた。



駒田 柳之（1934～）
「女盛り」 高5.0cm
象牙
正月などで門付け芸を披露する女芸能師。女盛りとは、一番美しい年ごろの女性を指す。口元を隠すしぐさに生娘らしい恥じらいが感じられる。



野垣内(のがいと) 秀也（1971～）
「烏天狗」 高3.8cm
黄楊
烏天狗は烏の嘴を持っているためにこう呼ばれる。牛若丸に剣術を教えたことで知られる。左手に剣を持ち、今から稽古するぞとこちらを睨んでいる。



黒岩 明（1949～）
「祝」 高5.9cm
象牙・漆
舞妓は京都の花街で、芸妓になるために修行をしている少女。座敷にでて舞踊や唄や三味線で宴席に興を添え、場を盛り上げる京文化の華。



中村 雅俊（1915～2001）
「伊左衛門」 高5.3cm
象牙
上方を代表する歌舞伎「吉田屋」の通称で知られる夕霧と伊左衛門の恋物語。親に勘当された伊左衛門が身をやつし、途方にくれる心情を表している。



山田 洋治（1934～2023）
「小豆研ぎ」 高3.6cm
黄楊
川で小豆を洗う妖怪。笑いながら小豆を洗って数を数えるのを得意とする。縁起の良い妖怪といわれ、見かけると娘が早く嫁ぐという。



平賀 胤壽（1947～）
「矢盡(しじん)」 高4.3cm
銀925・黄銅、水牛角 他
刀折矢盡(とうせつしじん)とは激しい戦いの末、武器が尽き、万策が尽きたことをいう。絶望したはずの若武者は何か攻略の糸口を見つけたようだ。